群馬県史蹟名勝天然記念物
調査報告　第三輯

多野郡平井村白石稲荷山古墳
復刊版

群馬地域文化振興会

群馬縣史蹟名勝天然紀念物調査報告

第三輯

多野郡平井村白石稲荷山古墳

群馬縣史蹟名勝天然紀念物調査會臨時委員　後藤守一

同　相川龍雄

序

一、本書は帝室博物館及本會合同の下に昭和八年十月發掘調査せる多野郡平井村大字白石所在稲荷山古墳の報告で當時主として其の調査に當られた帝室博物館鑑査官後藤守一氏並本會臨時委員相川龍雄氏の執筆にかゝるものである。

一、稲荷山古墳の現地調査完了後出土遺物を帝室博物館に提出するや地元關係者に於ては其の下付金の一部を以て報告書刊行の資に充つるの意圖を有し本會を通して上申せるに對し同館に於ては其の意を諒せられ更に本縣に於て後藤鑑査官を本會臨時委員に委囑し報告書の執筆を求めんとするや進んで之を許諾せらるゝ特別の好意を寄せられ以て本書完成に至れるものである。

一、本報告書作成に付ては卽ち地元より特に博物館下付金の内金壹千圓を寄せられ本書編纂のことも或は寧ろ其の熱意に因つて釀成せられたとも謂ひ得へく更に地元に於ては下付金を以て古墳保存施設の完きを期せられたが斯の如きは何れも地元村民の篤き崇祖精神と斯學に對する深き理解とに基くもので深甚の敬意を表する次第である。

一、由來本縣は古墳の存するもの多く最近の調査に依れば實に八千三百四十五基

を數へ一に古墳國上野を以て稱せられつゝあり古來考古學上幾多貴重なる資料を與へ來れるが本稻荷山古墳は報告に付て觀るが如く更に多くの資料を提供せるもので之等に基く各種の研究考察と相俟て蓋し學界に貢献する所尠からざるへく夫等は擧げて執筆者の苦心研究の賜である。

茲に執筆兩氏の勞を深く多とし併せて本調査の實施並報告書の完成に對し多大の好意と援助とを與へられた帝室博物館當局を始め地元平井村當局、關係村民其の他の諸氏に對し深く謝意を表するものである。

昭和十一年五月

群馬縣史蹟名勝天然紀念物調査會

著者序文

一、本報告書は、後藤・相川二人が夫々打合せ、調査を重ねた結果を錄したものであり、石製模造品發見地名表を相川一人で編むといふ樣なこともあるが、他の全部は兩人の共同執筆にかかるものであり、これを後藤の手によつて、全編に纏めて體裁を整へたものである。

二、本報告書の體裁・內容については、縣當局は一切を擧げて余等兩人に委せられたのである。この寬容に對して吾々兩人は、十分を盡して記述に當るべきであつたが、不敏の至すところ、其の不備・不體裁の多きを恥るものである。

三、本報告書の執筆に當り、縣當局の諸氏及び白石村有志の諸氏は言ふ迄もない、所藏遺品の自由なる調査を許された帝室博物館總長杉榮三郎閣下・同事務官矢島正昭・歷史課長原田淑人先生、又調査に當つて種々の便宜援助を與へられた同僚高橋直一・堀江知彥・神林淳雄・森貞成君、遺品の調査に教示を賜つた江上波夫君等の厚意に深甚の謝意を表するものである。

昭和十一年四月下旬

群馬縣史蹟名勝天然紀念物調査報告　第三輯

目次

前編　調査

第一　發掘の經過……一
第一回發掘―第二回發掘―白石古墳群の調査
第二　稲荷山古墳の位置……四
鏑川谷の口に位置す―白石古墳群―白石古墳群所在地の地形
第三　古墳の外形……九
墳丘の位置及び方向―墳形の數字―周溝
第四　埴輪圓筒列及葺石……一三
後圓部中腹の埴輪圓筒列と葺石―後圓部頂上の埴輪圓筒列―本古墳に於ける埴輪圓筒列―本古墳に於ける葺石
第五　形象埴輪の發見……二一
西櫛上に於いて發見した形象埴輪―埴輪家排列の順序―埴輪家と遺骸との位置關係
第六　東西の石櫛……二四
東櫛―西櫛―東西兩櫛の中間地域

第七　東槨の發掘……二八
第八　西槨の發掘調査……三〇
粘土を以て被覆する—副葬品配列の概要—中區(石枕及び鏡)—頸玉—遺骸は西向きか—石枕下の小玉及臼玉—北區卽ち奥區に於ける副葬品—石製刀子及石製劍身—櫛—勾玉—銅製刀子柄—南區卽ち入口に近き部分に於ける副葬品—木槨の主は女性か
第九　出土の埴輪……三七
埴輪倉庫家—埴輪切妻家—埴輪切妻家—埴輪切妻家—埴輪切妻家—埴輪切妻家—埴輪切妻家—埴輪倉庫家—埴輪倉庫殘缺—埴輪短甲
第一〇　東槨出土の遺物……四七
内行花文鏡—碧玉岩製勾玉—碧玉岩製管玉—ガラス製管玉—ガラス製切子玉—碧玉岩製算盤玉—石枕—石枕—石製箕—石製案—石製杵—石製坩—石製鎌—石製刀子—石製劍身
第一一　西槨出土の遺物……五四
乳文鏡—碧玉岩製勾玉—石枕—石製案—石製杵—石製坩—石製釧—石製扆—石製勾玉—石製刀子—石製劍身—銅製刀子柄—櫛
第一二　陪　冢……六四
第一三　白石古墳群の調査……六五
稲荷山古墳群—十二天山—皇塚及これを繞る小圓墳群—附一、喜藏塚—附二、八幡塚‖七輿山古墳群—七輿山古墳—天神山古墳—宗永寺東圓墳—宗永寺裏西塚—宗永寺裏東塚—藥師塚—宗永寺北積石塚—附宗永寺藏馬鐸‖猿田古墳群—鍋塚‖下郷古墳群—二子山古墳—萩原塚—江原塚—天王塚—藤岡街道南圓墳

後編　餘說

第一　白石古墳群に於ける稲荷山古墳……九七
第二　埴輪家と埴輪短甲……一〇四
第三　並　葬……一〇六
第四　石製模造器具の性質……一一三
第五　石製履……一一六
第六　附　言……一二六

圖版目次

圖版第一　白石古墳群地形圖（陸地測量部地圖による、後藤製圖）
圖版第二　稲荷山古墳（西北より）
圖版第三　(一)稲荷山古墳（東より）
　　(二)稲荷山古墳（北より）
圖版第四　(一)稲荷山古墳頂上より北方を望む
　　(二)稲荷山古墳頂上より西南方を望む
圖版第五　稲荷山古墳實測圖（後藤實測及製圖）

圖版第六　(一)後圓部下段葺石及埴輪圓筒列
(二)後圓部頂上埴輪圓筒列
圖版第七　西槨上の形象埴輪出土狀態（西より）
圖版第八　(一)西槨上の形象埴輪出土狀態（南より）
(二)西槨上の埴輪甲出土狀態（西より）
圖版第九　(一)東槨（北より）
(二)東槨一部
圖版第一〇　東槨構造實測圖（高橋直一・後藤原圖・後藤製圖）
圖版第一一　西槨構造實測圖（高橋直一・後藤原圖・後藤製圖）
圖版第一二　(一)西槨遺物出土狀態（北より）
(二)西槨遺物出土狀態（北より）
圖版第一三　(一)西槨遺物出土狀態（南より）
(二)西槨遺物出土狀態（南より）
圖版第一四　西槨遺物出土狀態（原色版、高橋直一・後藤原圖・森田青華氏描圖）
圖版第一五　(一)西槨遺物出土狀態（中央部分）
(二)西槨遺物出土狀態（中央部分、石枕を取はづしたところ）
圖版第一六　(一)西槨遺物出土狀態（北部）
(二)西槨遺物出土狀態（南部）

圖版第一七　(一)西槨北端
(二)西槨南端
圖版第一八　東槨上出土埴輪倉庫(二階家)(東第五號家)
圖版第一九　(一)東槨上出土埴輪切妻家(東第一號家)
(二)東槨上出土埴輪切妻家(東第二號家)
圖版第二〇　(一)東槨上出土埴輪切妻家(東第三號家)
(二)東槨上出土埴輪切妻家(東第四號家)
圖版第二一　(一)西槨上出土埴輪切妻家(西第三號家)
(二)西槨上出土埴輪切妻家(西第二號家)
圖版第二二　(一)西槨上出土埴輪二階家屋根(西第一號家)
(二)後圓部中腹出土埴輪圓筒殘缺
圖版第二三　西槨上出土埴輪短甲
圖版第二四　(一)東槨出土內行花文鏡
(二)東槨出土玉類
圖版第二五　(一)東槨出土石枕
(二)東槨出土石枕？
圖版第二六　(一)東槨出土石製案
(二)東槨出土石製箕

圖版第二七　東槨出土石製案杵及坩
圖版第二八　西槨（向つて左）及東槨（向つて左）出土石杵
圖版第二九　(一)東槨出土石製鎌
(二)西槨出土石製釧
圖版第三〇　東槨出土石製刀子
圖版第三一　東槨出土石製刀子
圖版第三二　東槨出土石製刀子及石製劒身
圖版第三三　(一)西槨出土獸文鏡
(二)西槨出土玉類
圖版第三四　西槨出土頸飾
圖版第三五　(一)西槨出土石製枕
(二)西槨出土石製案
圖版第三六　西槨出土石製案杵及坩
圖版第三七　西槨出土石製勾玉
圖版第三八　西槨出土石製刀子
圖版第三九　西槨出土石製刀子
圖版第四〇　西槨出土石製刀子
圖版第四一　(一)西槨出土石製履（表）

(二)西槨出土石製履（裏）
圖版第四二　西槨出土銅製刀子柄
圖版第四三　西槨出土櫛
圖版第四四　陪冢出土品
圖版第四五　(一)山城國乙訓郡大原野村字石見上里出土石製履
（參考）　(二)東京市世田ヶ谷　玉川等々力等々力ゴルフリンクス構内大塚出土石製履
圖版第四六　(一)石枕の型式
（參考）　(二)整備された石枕

挿圖目次

挿圖第一　後圓部中腹の埴輪圓筒列と葺石……一三
挿圖第二　後圓部頂上埴輪圓筒列……一六
挿圖第三　墳丘想定復原平面圖……二〇
挿圖第四　西槨上に於ける形象埴輪出土狀態俯瞰圖……二三
挿圖第五　西槨頸玉發見狀態見取圖……二三
挿圖第六　西槨北區に於ける副葬品出土狀態……二五
挿圖第七　東槨上出土埴輪倉庫……二八

挿圖第八　東槨上出土埴輪切妻家（東第一號家）……四〇
挿圖第九　東槨上出土埴輪切妻家（東第二號家）……四一
挿圖第一〇　東槨上出土埴輪切妻家（東第三號家）……四二
挿圖第一一　東槨上出土埴輪切妻家（東第四號家）……四二
挿圖第一二　西槨上出土埴輪切妻家（西第三號家）……四三
挿圖第一三　西槨上出土埴輪切妻家（西第二號家）……四三
挿圖第一四　西槨上出土埴輪倉庫殘缺（西第一號家）……四四
挿圖第一五　西槨上出土埴輪短甲……四六
挿圖第一六　上野國碓氷郡八幡村大字劔崎出土三角板革綴短甲（帝室博物館藏）……四六
挿圖第一七　東槨出土管玉及切子玉……四八
挿圖第一八　東槨出土石枕……四九
挿圖第一九　東槨出土石枕……四九
挿圖第二〇　東槨出土石製箕……五〇
挿圖第二一　東槨出土石製案……五〇
挿圖第二二　石製杵（右東槨左西槨出土）……五一
挿圖第二三　東槨出土石製刀子型式圖……五三
挿圖第二四　東槨出土石製劔身……五四
挿圖第二五　西槨出土石枕……五六

挿圖第二六　西櫛出土石製案……五七
挿圖第二七　石製坩……五八
挿圖第二八　西櫛出土石製釧……五八
挿圖第二九　西櫛出土石製履……五九
挿圖第三〇　西櫛出土勾玉……六〇
挿圖第三一　西櫛出土石製刀子型式圖……六一
挿圖第三二　銅製刀子柄……六二
挿圖第三三　對馬白岳出土角形銅器……六三
挿圖第三四　滿洲土俗に見る刀子……六三
挿圖第三五　西櫛出土櫛見取圖……六四
挿圖第三六　十二天塚及稻荷山古墳遠望……六六
挿圖第三七　皇　塚（南より）……六七
挿圖第三八　皇塚の葺石……六七
挿圖第三九　皇塚古墳及附近（後藤原圖及製圖）……六八
挿圖第四〇　皇塚附近古墳發見埴輪鷄頭部……六八
挿圖第四一　皇塚附近露出石室實測圖（相川原圖・後藤製圖）……六九
挿圖第四二　喜藏塚平面實測圖（後藤原圖及製圖）……七〇
挿圖第四三　喜藏塚横穴式石室實測圖（後藤・相川原圖・後藤製圖）……七〇

挿圖第四四　喜藏塚横穴式石室及その入口……七一
挿圖第四五　八幡塚石室實測圖（後藤・相川原圖・後藤製圖）……七二
挿圖第四六　七輿山古墳平面實測圖（後藤原圖及製圖）……七四
挿圖第四七　七輿山古墳（北より）……七五
挿圖第四八　天神山古墳の石棺（後藤原圖及製圖）……七六
挿圖第四九　宗永寺東圓墳實測圖（後藤原圖及製圖）……七七
挿圖第五〇　宗永寺裏西塚實測圖（後藤原圖及製圖）……七八
挿圖第五一　宗永寺裏東塚平面實測圖（後藤原圖及製圖）……七八
挿圖第五二　藥師塚實測圖（後藤原圖及製圖）……七九
挿圖第五三　藥師塚石室實測圖（相川原圖・後藤製圖）……七九
挿圖第五四　宗永寺北積石塚……八一
挿圖第五五　宗永寺藏馬鐸……八一
態圖第五六　元祿年間の古圖に見る鍋塚古墳群……八二
挿圖第五七　鍋塚古墳實測圖（後藤原圖及製圖）……八二
挿圖第五八　二子山古墳實測圖（後藤原圖及製圖）……八三
挿圖第五九　二子山古墳出土埴輪人物像殘缺……八四
挿圖第六〇　二子山古墳出土金屬鐶及三輪玉形金具……八五
挿圖第六一　二子山古墳出土馬具……八六

挿圖第六二　二子山古墳出土轡及杏葉（後藤圖）……八六
挿圖第六三　二子山古墳出土鞍金具（後藤圖）……八七
挿圖第六四　二子山古墳出土拵付大刀（後藤圖）……八七
挿圖第六五　萩原塚平面實測圖（後藤原圖及製圖）……八九
挿圖第六六　萩原塚石室實測圖（相川原圖・後藤製圖）……八九
挿圖第六七　萩原塚出土品……九一
挿圖第六八　天王塚平面實測圖（後藤原圖及製圖）……九三
挿圖第六九　藤岡新道南古墳……九三
挿圖第七〇　上野國藪塚附近出土石製屐……一一九
挿圖第七一　平城宮遺溝出土屐……二〇
挿圖第七二　伊勢柚井出土屐……一二三
挿圖第七三　三才圖繪の屐……一二五

前編　調査

昭和九年十月十九日を
トして稲荷神社舊阯の
碑の除幕をなす

稲荷山古墳

第一　發掘の經過

平井村大字白石の堀越武十郎氏等數氏が主として事に當られた稲荷山開墾組合の人々によつて、本稲荷山古墳後圓部の一部が發掘されて埴輪及び副葬品の出土したのは昭和八年三月下旬の事であつた。併し農繁等の事情から一時その出土の遺物は封藏せられ、漸く十月に入つて公開の運びとなり、相川は縣史蹟名勝天然紀念物調査會から遺蹟遺物について調査すべき命を受けて現場に出張調査し、本古墳が縣内有數の大古墳たることを知るとともに、出土遺物に所謂埴輪二階家を始め、石製品を主なるものとする副葬品に注意すべきもののあるを見た。この事實が東都に報ぜらるゝや、後藤は僚友高橋直一君と現地に出張、遺蹟の半ばが未だ調査發掘せられざるを見て、相川・高橋・後藤共同し、村民諸氏の援助の下に、既掘・未掘を合せて發掘調査し、興味ある遺蹟たることを確かめたのである。今、先づ發掘の經過を略叙し、以下順を追ふて余輩の所見を記すこととせう。

十月二十三日　東槨出土遺物の内容が大々的に新聞に報ぜられたことにより、後藤は同僚高橋直一君と共に帝室博物館から現地出張の命を受け、この日東京出發、高崎驛にて大圖君・相

川の出迎を受けて現地に到着後、村社飯玉神社境内にある東槨出土品を一覽、更に稻荷山古墳を實査した。而してこれが更に精査せらるべき必要あるを認め、縣史蹟調査會を代表する大圖君・相川と合同、村の援助の下に發掘調査することに夫々手續を了し、先づ古墳全形の實測測量を終り、古墳が其の長軸の方向を南四十五度西に有し、長軸の長さ九十二米半、前方部の幅四十一米、後圓部底徑五十二米半、その高さ十二米、二段築成の大前方後圓墳なることを明かにすることが出來た。

十月二十四日　先づ既掘の東槨の構造を確かむべく、村民の指示の位置に於て掘返し工事を試み、その遺構を略ぼ明かにすることが出來た。用石の大半が搬出された爲めに、其の原形を完全に復原することは出來なかつたが、併し其の軸を略ぼ古墳のそれに並行する竪穴式礫槨が現在の地平面下一米十糎に其の底面を有してゐることを明かにする事が出來、その遺蹟の實際について、發見の副葬品の占位狀態を村民の人達から聽取することが出來た。五個の埴輪家がその東槨の眞上から發見されたものであることは言ふ迄もない。

而して明かにされた東槨が、後圓部頂上の中央位になく、著しく東に片寄つてゐるのを見て、此の東槨と相並んで、後圓部頂上に更に西槨の存在するであらうと推定しその西槨の上にあるべき埴輪家の埋沒に出會うことを期して、ここにA溝（トレンチ）を幅一米・深さ五十糎に定めて西へと掘り進めて行つた。ところが果せるかなA溝は西槨眞上の第四號埴輪家の埋沒せるに出會つたのである。そこで、その第四號家を基點とし、その南北へ夫々東槨と並行にB溝を掘鑿して第四號家の南に第三・第二・第一の埴輪家（歸京後精査して見たところ、第三・第二號の兩個は一個の家にまとまるものであつたことを誤認したことを發見した）

更に二米許を距てゝ埴輪短甲を發見した。

十月二十五日　埴輪家をとりのけ當然その下にあるべき西槨の發見を期して更に掘鑿をつづけ、遂に地平面下一米五十糎に其の底面を有する西槨を發掘する事が出來た。これが處女遺蹟であつたことは言ふ迄もない。卽ち其の底面には砂礫を厚く布き、幅四十糎內外に兩側に一段又は二段と不規則に自然石をおき並べて左右壁とし、前後、卽ち南と北との兩端に多少上反り氣味に自然石を積んで、從來呼ばれてゐた礫槨と竪穴式石室との中間樣式の如きものを造構してゐたのであり、而してその中央に石枕をおき、北端に石製模造品の一群及び銅器・櫛等をおき、石枕の南には鏡をおき、更に其の南に石製履及び其の他の石製模造器具の類をおいてあつた。

十月二十六日　西槨出土品を現場に於いて精査し、頸飾の配置等を明かにした。

なほ東槨と西槨との間が、少し距離があり過ぎ、其の中央に更に一槨の存在を豫想し得られるので、これを精査すべく縱橫にトレンチを掘鑿して見たが、中央槨を發見することは出來なかつたし、村民に石棺の存在を說くものもあつたが、否定的資料のみが多く、是を肯定することは困難である。

十月二十七日　西槨內の精査をつづけると共に墳丘頂きの埴輪圓筒列の殘影として埴輪圓筒五個を夫々其の原位置に於いて發見し、更に墳丘中腹の葺石及び埴筒圓筒列の殘影を後圓部北側の中腹に於いて發見した。

十月二十八日　西槨出土の遺物の取上げを了ると共に、更に東槨・西槨の兩者について其の

遺構を調査した。

十月二十九日。　東・西兩槨構造の最後の調査を了つた後、此に土を覆うて原狀に復すると共に、稲荷山附近の古墳群を實査し、その中下郷の二子山及び落合の七輿山古墳を實測した。

十月三十日　出土品の整理・荷造りを終了した後、稲荷山後圓部頂上に於いて歸靈祭を行つた。縣からは星子學務部長・大崎社寺兵事課長が式に立會はれたのには村民も光榮としたであらう。

式の終了後、發掘關係の村民諸君と慰勞の宴に一献を酌み、夜に入つて村を出發した。以上、西槨を中心として行はれた發掘調査を第二回の發掘とする。

第二　稲荷山古墳の位置

鏑川谷の口に位置す　稲荷山古墳は、上野國の西南隅の横谷――鏑川谷――のまさに中央の大平原に接し様とするところに位置を占めてゐる。

鏑川谷には、製絲を以つて知られた富岡町を始め吉井町・一ノ宮町等があり、此等の都市を貫いて上信電軌も走つてゐるが、併し上野國の大動脈の躍動してゐるところではない。全く傍系に屬してゐるが、中仙道線が現在コースを採らなかつた往昔に於いては、信濃と毛野との兩地方連絡は寧ろ此の谷によつたのではあるまいか、又毛野開拓の動脈はこの谷を通つて躍動してゐたのではあるまいかと思ふ。上野三碑の二は此の谷にあるといふてよいし、又一ノ宮